

「知らない魅力を発見・発信する人材に」

はじめに、自分たちは地元のことをどれだけ知っているでしょうか。習慣的に使っている道や建物のことは覚えていられるかもしれませんが、一本道を外れた場所や周囲の建物などはどうでしょう。地元といっても知らないことは多くあります。しかし、そういった場所こそ魅力的に感じる可能性を秘めています。

現在、私は、県外の大学に通っています。そのため、長期休暇中などにしか帰れません。そこで帰省すると毎回自分の視野が狭かったことを実感させられます。先日ASAトライアングルサイクリングコースの鳴門市シティーコースを自転車で走ってみると前からある建物でも知らなかったり、大通りから

一本外れた道を通れば新たな世界が見えてきます。また、地域でこんな活動をやっていたのかと地域外からみることでわかっていくことがあります。自分自身、地域のことをわかっているつもりでも、視点や少し場所を変えるだけでわからないことが多くありました。

そこから、まだまだ知らないだけで近くには面白いものがいっぱいあるのではないかと考えました。自分の関わりが強いものには目がいきませんが、そのほかのものは見えていなかったりします。また、知っているものだからこそ見落としていたりもします。しかし、見えていないものにも魅力はたくさんあると感じます。

また私は、現在まで十二年間陸上競技を行っています。そこでさまざまな地域に合宿や試合で行きました。鳴門市には、鳴門市総合運

動公園陸上競技場があり、県内スポーツの拠点としてさまざまな競技の大会が行われています。そのほかにも運動が行える施設はたくさんあります。それが当たり前なことだと感じていました。しかし、他の地域にいくと施設が整っていないことや、そもそもその地域に競技を行える場所がないことが多々あります。そのことから、自分では何とも思っていないことでも客観的に見れば恵まれており、他者から見ればとても魅力的に感じることがあります。

このような経験から、鳴門市には自分たちが見えていないだけで、たくさんの方の魅力があるのではないかと感じています。しかし、他の地域にいくと鳴門市を知っている人は少なく、住んでいる自分たち自身でさえも地域のことを知らない人はたくさんいるのではないかと思っています。だから私は、このよ

うな魅力ある鳴門を色んな人に知ってもらいたいと考えています。

そのため、私は、地域創造学部という学部に進み、今地域はどのような現状・課題があり、どうやって解決していくのかを学んでいきます。大学での学びや活動を通して、知らない魅力を発見・発信する人材になっていきます。そうすることで目まぐるしく変化する社会の中で、変わることはない故郷をすべての人が誇れるような地域になることに貢献できるのではないかと考えています。

最後に、これまで育ててくれた両親や家族、ご指導して頂いた先生方、地域の方々、これまで一緒に頑張ってきた仲間、自分という人間に関わってくれたすべての人に感謝し、自分の目指すべき目標に向かってこれからも努力していきたいです。